

校内研修支援研修「言語活動の充実」 潮平小学校・東風平小学校、合同で開催、とよみ小学校で開催

島尻教育研究所の短期研修に校内研修支援研修があります。

7月27日には「授業における言語活動の充実に向けた理論と実際に関する研修をとおして、校内研修の充実に資する」ことを目的とし、琉球大学玉城きみ子准教授を講師として、午前中に南部総合福祉センターにて潮平小学校と東風平小学校の職員を対象に、午後はとよみ小学校の職員を対象に研修を行いました。

「言語活動の充実を目指して」の講話の後、実際に教科書にある教材「自然のかくし絵」(第3学年)と「大造じいさんとがん」(第5学年)を使用し、会場の先生方との対話形式で話題を広げたり、深めたりしながら、教材研究の視点や授業展開の仕方等を皆で考えるワークショップを行いました。

研修のレジューメ

- 1 はじめに
- 2 子ども主体の授業づくり～単元を貫く言語活動と並行読書～
プレゼンテーションの内容
 - アクティブラーニングについて
 - なぜ、今、「単元を貫く言語活動」や「平行読書」なのか
 - 国語科の授業改善について
 - 「単元を貫く言語活動」や「平行読書」を基にした実践例
 - 指導と評価の一体化に向けて
- 3 教材研究：ワークショップ
 - (1) 第5学年「大造じいさんとがん」第5学年：30分
高学年の単元を貫く言語活動の一例：本の帯作成に向けて
文学教材の教材研究
 - (2) 第3学年「自然のかくし絵」第3学年：30分
教材研究教材文で付けたい力
文章構成図作成
単元を貫く言語活動について
- 4 質疑応答と振り返り
- 5 終わりに



写真1 潮平小・東風平小の合同開催



写真2 講師を囲んで(とよみ小にて)

研修の感想 (アンケートから)

- 単元を貫く言語活動の工夫改善で「入れ子構造」「ABワンセット方式」の単元展開した授業の取組みが大変参考になりました。ワークショップでは「大造じいさんとがん」の題名読みや子どもの心に残った場面から展開していく方法など、二学期に実践していきたいと思えます。(潮平小 教諭)
- 「一人学び」の取り組みをやってみたくて思いました。読みっぱなしでなく、最後は「書く」という活動がゴールであるということに頭にに入れておきたいです。(潮平小 教諭)
- 音読・視写など基礎・基本の力を身に付けさせる方法の具体的な説明や実際の教材を使っての説明はわかりやすかったです。(東風平小 教諭)
- 教材研究の大切さ、子どものつばやきから授業を展開していくことの大切さを改めて実感しました。ワークショップでは、子どもの気持ちになり、学習を考えていく大切さが身にしました。(東風平小 教諭)
- 子どもに何を身に付けさせたいのか、教師の教材解釈が大切だとわかりました。子ども主体の授業づくりのために「知りたい」「なぜ」を大切に子どものつばやきをひろって授業していきたいと思えます。(とよみ小 教諭)
- 教材解釈の深さ、おもしろさを感じ、教材研究の大切さを感じました。子どもの姿を予想しながら教師自身が教材を知り、好きになれるようにすると子どもにも伝わるとわかりました。ワークショップでは、指導方法や他の先生方の考えを共有することができて、よかったです。(とよみ小 教諭)